

気ままな4行詩集

# ノスタルジア



月刊ポエム同人会

## たつた四行、されど四行

短い言葉のつながりだからこそ  
言えることもある

短すぎてとつても物足りないこともある  
それでも言葉にすることで、

見えてくること、分かってくること

なによりも、そんな小さな発見が嬉しい

たつた四行

されど四行。

## 4行詩集とは？

共通のテーマ素材による4行詩の競作詩集です。  
詩は1行30文字以内で計4行以内の形式限定で  
平易な口語体をとっています。

## 作者名について

詩集に掲載された四行詩の作者名は、いわゆるペンネームあるいはインターネット上で一般的な仮名である、ハンドルネームとなっております。

白

目次

白から始まる  
元旦  
白  
白  
憂鬱  
白  
白い世界  
迷い猫のつばやき・4  
砂糖菓子の少女

空(SORA)  
叙朱  
なお  
七海  
KURARA  
杏条  
ほたる もえ  
チャコ  
夜行人間

## 傷

knife

ためらい傷

僕という名の狼

Keep out

心の中の風景

恋の魔法

ピエロ

バランス

君ならきつと大丈夫

傷

傷

ほたる もえ

KURARA

夜行人間

榎原由乃

なお

河野夏月

叙朱

七海

空(SORA)

チャコ

うさぎ

## 芽

黒くも紅い

夜行人間

芽

チャコ

芽

KURARA

臆病

KU^

めばえ

ほたる もえ

リクルートスーツで行こう 相模 流緒

奇形

河野夏月

発芽

うさぎ

四季

空(SORA)

夢

叙 朱

壁

自分らしいやり方

壁

壁神

先達

壁

壁の向こうの誰かへ

Pantomime

壁

ファイヤーウォール

壁

プレッシャー

壁

壁の向こうにある夢

なお

夜行人間

叙朱

けたろっ

河野夏月

風花

杏条

ほたる もえ

七海

相模 流緒

うそぎ

KURARA

チャコ

空(SORA)

時

時  
ひとやすみ  
決壊  
こどもじかん  
Time Bomb  
探し当てた答えの一つ  
儂い者たち  
砂時計  
あなたへ  
時間  
時  
時（とき）

七海  
空(SORA)  
河野夏月  
なお  
ほたる もえ  
夜行人間  
相模流緒  
うさぎ  
杏条  
KURARA  
チャコ  
叙朱



## 雨

雨  
 雨の部屋  
 k a i k o n  
 雨  
 雨  
 泣き虫  
 おたんじょうかい  
 虹  
 雨の匂い  
 独り  
 てるてる坊主  
 雨

七海  
 ほたる もえ  
 河野夏月  
 叙朱  
 空(SORA)  
 なお  
 うさぎ  
 相模流緒  
 杏条  
 チャコ  
 夜行人間  
 KURARA  
 ISSHI

Over Heat

熱

風邪の確認

Sさんのこと

The Body

体育祭

自分らしさ

微熱

ぬくもり

刻印

ひとりの部屋

あたたかい水 冷たい水

冒洗

熱意

ほたる もえ

七海

なお

夜行人間

チャコ

河野夏月

月那

うさぎ

相模流緒

KURARA

杏条

ISSI

空(SORA)

叙朱

## 波

Waver  
 空港でお別れするとき  
 こころの揺れ  
 心の波  
 波  
 リセット  
 悠久  
 燻る  
 波  
 優しかった夏  
 散歩  
 波  
 風の祝福  
 眩しい海

ほたる もえ  
 なお  
 ISSI  
 Ku  
 七海  
 空(SORA)  
 河野夏月  
 夜行人間  
 うさぎ  
 月那  
 チャコ  
 杏条  
 叙朱

## 嘘

まなざし  
 嘘つき  
 叶うなら  
 幼いうそ  
 しょうじきもの  
 私の嘘  
 ソーダ水  
 嘘吐き  
 お互いさま  
 1 3・2 5  
 嘘  
 優しい嘘  
 嘘つき  
 花

チヤコ  
 杏条  
 河野夏月  
 叙朱  
 なお  
 月那  
 ほたる もえ  
 奈緒  
 空(SORA)  
 夜行人間  
 うさぎ  
 KURARA  
 杏条  
 ISSI

風貌  
顔  
ガード  
寝顔  
poker face  
素颜  
回想  
本音  
印象  
面影  
笑顔  
お願い  
顔  
力才  
勝った……  
至福のとき

夜行人間  
チャコ  
まつなみき  
月那  
ほたる もえ  
sjima  
奈緒  
河野夏月  
KURARA  
うやむ  
空(SORA)  
杏条  
七海  
ISSI  
叙朱  
相模流緒

## 味

味覚  
 味  
 ブイヨン  
 近いうちに  
 苦い味  
 緊張  
 B E E R  
 誤魔化し  
 素手  
 口論  
 涙の味  
 いろんな味  
 望郷

月那  
 七海  
 うさぎ  
 ほたる もえ  
 空(SORA)  
 チャコ  
 相模流緒  
 KURARA  
 夜行人間  
 河野夏月  
 杏条  
 I S S I  
 叙朱



気ままな四行詩集

ノスタルジア



テーマ素材



白から始まる 空(SORA)

明日はどんな色になるのだろう  
今日がたとえ灰色でも明日はまた白から始まる  
夜が明けて真っ白い朝日が差したら  
きつと昨日とは違った色に染まるだろう

元旦 叙朱

見渡す雪野原に  
鋭刃のような日差しが跳ねる  
埋め尽くされたものに  
永訣を宣言する朝がきたようだ

白

なお

病院の  
白いベッドに 横たわる  
わたしの知らない 弱さもつ君

白

七海

嫌いだった冬を好きになり始めている  
寒いねと手を握るあなたが嬉しくて  
大丈夫 きつとつまく行くよね  
小さな願い 降り始めた雪を見上げて

憂鬱

KURARA

真つ白な憂鬱が私を照らす  
動けない  
笑えない  
全部吸い込まれてしまつんだもの

白

杏条

他の誰より傷つきやすく  
時に無とさえ言われる君  
でも僕は知っている  
他の誰にも劣らない君を

白

河野夏月

取り留めのない言葉を  
綴っていました  
黒い壁に張り付いた満月が  
僕を見て笑っていました

証

いぢやん

何もかも凍り付いた、研ぎ澄まされた冬の朝  
忍び足のベランダで、伸びをする息だけが白い  
唯一、それだけが  
負けない決意をした、私の生の証

白い世界            ほたる    もえ

珍しく雪が積もった朝  
一番乗りで足を踏み入れた世界に  
吐息が白く溶けた  
そんな Snowy Day

迷い猫のつぶやき・4            チャコ

罫線だけのページが続く  
三日も書けなかった日記  
重なり合う空白の中でも  
日常は生きている

## 砂糖菓子の少女

夜行人間

仔猫のような 柔らかいその髪に顔を埋めると  
髪匂いは どこかしら思い出めいていて  
それは子供の頃大好きだった 砂糖菓子  
そう 君は僕の砂糖菓子 胸の奥まで甘くする

テーマ素材

# 傷



knife

ほたる もえ

その言葉はナイフ 鋭く心につきささる  
まだ癒えていない傷に 容赦なく  
乾いて思い出に変わるとき  
初めてナイフの意味を知る

ためらい傷

KURARA

あなたを信じようと  
信じようとして握りかけた指  
中途半端な 温もりが  
私の心に ためらい傷を増やす

僕という名の狼 夜行人間

君は もう何処にもいない  
 夜明け前 欠けた月が傷に見えた  
 締めつけられる想いで僕はあの月に泣き叫んだ  
 悲しいよう……… 悲しいよう……… と

Keep out 榎原由乃

ちゃんとあなたに見えていた Keep Out の立て札  
 無視して踏み込めば傷付くのは芝生  
 それを土足でつぶして壊したのは私です  
 自首しても情状酌量の余地がないならいっそのまま

心の中の風景　なお

旅先の車窓から、青い屋根の家をみつけた。  
どきつとする……。そして……  
ここは神戸じゃなかったんだって、思う……。  
知らない町を静かに走る電車に、わたしはゆられている。

恋の魔法　河野夏月

その温もりを抱きしめた  
どうしたら優しくなれるだろう  
「好き」と言うたび  
傷がふえていく

ピエロ  
叙朱

360度の晴れ空に  
爪を伸ばして傷をつけようと  
あがいているんだ  
きみの笑顔が見えないから

バランス  
七海

たまらなくあなたが好きだった  
だけどいつからか傷つけ合わなければ  
バランスがとれない程までに  
二人は二人でなくなってしまうんだね

君ならきつと大丈夫  
空(SORA)

大丈夫だよ 君ならきつと大丈夫  
傷ついた分だけ強くなれる  
厚い雲が晴れて君の笑顔が見えたら  
暖かい光に包まれて傷が癒えてゆく

傷  
チャコ

落ちた果实ならジュースにできる  
壁のへこみなら埋めてしまえばいい  
けれども 私に残るこの傷は  
リセットできない自分自身

傷

しやぎ

傷から、かたくなに目を背けた日々があり  
傷を見下して眺めた日もあった  
なのに今、指でなぞって愛おしくもある傷跡  
寂しくもあり… おかしくもあり…

テーマ  
素材

# 芽

黒くも紅い

夜行人間

このままの関係を壊したくない  
でも もう姉弟みたいな関係でいたくない  
あなたのすべてが欲しいと呻く 黒くも紅い情念が  
心に芽吹いてしまったから

芽

チャコ

私はひとり目を閉じて  
頬染めることさえ禁じている  
我慢を忘れた時代でも  
芽生えた「想い」で他人を壊す資格はない



芽

KURARA

あなたがくれた 友情の種から  
 私が芽吹かせたのは 愛情でした  
 早くこの芽を 摘み取らなきゃ  
 花が咲いて あなたに 嘘がばれてしまう前に。

臆病

K U

そつと育ちはじめた日々  
 誰かに踏みつぶされないかと  
 私は2人を  
 ひた隠しにする

めばえ                    ほたる                    もえ

昼下がり    いつものダイビングプール  
 確実に芽生えている5cmの生命に  
 重なっていく    還っていく  
 キュツと目を閉じてみた    静かね、ここは・・・

リクルートスーツで行こう                    相模 流緒

リクルートスーツ    新調したけど    ため息  
 帰り道    空き缶蹴りとばした  
 その先にあつた坂道は    今の私に登って行けそうにない  
 見上げたら、雪の重さに耐える細い枝先    まだ登れそう

奇形

河野夏月

ぐにやりと曲がったまま

黄緑色の芽が出てきた。

他の誰も生きられなかった

アスファルトの割れ目を押し上げて。

発芽

うやむぎ

別れ際にあなたが 投げてよこした悲しみが

心の庭で芽を出そうとしています

いったい どんな花をつけてくれると言うのでしょう

あの日、恋のバラは燃える花びらと柔らかな棘を持っていた

けれど……

## 四季

KH(SORA)

春に芽吹いた蕾は大きく花を咲かせる夏を待つ  
 夏に開いた花はたくさんの光の中で実を結ぶ秋を待つ  
 秋に実った果実は人の心を満たして冬を待つ  
 冬に眠りについた木々は新しく芽吹く春を待つ

## 夢

叙 朱

ぼくの未来を分子において  
 分母にぼくの過去をおく  
 割つても割つても終わらない  
 無限小数の夢芽吹く春

テーマ素材

壁土

壁

なお

みえる壁より  
みえない壁の方が  
こわすのつて  
むずかしい……

自分らしいやり方 夜行人間

無理に乗り越えたり 増して壊すことはない  
壁に沿って 歩いてみよう  
きつと 必ずどこかに  
穴が空いていたりするものさ

壁

叙朱

昼下がりの下り坂は  
 歩いているだけで気が詰まりそうになる  
 長城のように続く石壁に  
 終わりが見えないような不安を感じて

壁神

けたろっ

かべに開いた 画びょうの穴の跡  
 べつに気にする事じゃないけれど……  
 ガラにもなく沈んだ ブルーな気持ち  
 みおろしている 気がしたのです

先達

河野夏月

叩いたり 蹴ったり よじ登ったりしてみても  
 なかなか超えられない壁だけど  
 疲れたら 背中預けて休めるから  
 そんなに 悪くはないかな

壁

風花

やつはじつとして動かない  
 なのに  
 たやすく飛び越えられるほど低かったり  
 宇宙を覆いつくすほど大きくなったりする



壁の向こうの誰かへ

杏条

もしも痛みに耐え切れなくなったのなら  
 あの日の柔らかな日差しを思い出してごらん  
 あの仲間達と過ごした思い出に触れてごらん  
 恐れは抱いたままでもいいんだ さあ顔を上げて

Pantomime

ほたる もえ

君との間には 決定的な壁があつて  
 越えようとして 壊そうとして もがいている私  
 君には見えない 君には分からない  
 透明な壁に向かって 繰り返すパントマイム

壁

七海

さよならを言わせて  
こんな風にしか出来なくてごめんね  
手を伸ばしても届くはずのない遠く  
私がつくった二人の距離

ファイヤーウォール

相模 流緒

火柱が邪魔をしている　ここから動けない  
あなたに会うための　たったひとつの頼みの綱  
名前も知らないあなただけ、あいたい……

壁

うさぎ

この壁で私達を隔てて、そつと歩こう  
世の人は無限の可能性を私に唱えるけれど  
二人にベルリンの奇跡はあつてはいけないから  
向こう側にあなた　こちら側に私

プレッシャー　　KURARA

四方を取り囲む灰色の壁は、  
私にしか見えない。  
そして、日毎に私に向かって  
狭まってきた。

壁

チャコ

叩いても引っ掻いても壊れない  
お願いだからパスワードを教えて  
それとも あなた  
ここから先には入るなと言うの？

壁の向こうにある夢

空(SORA)

この壁を乗り越えたら何が見えるかな  
大きな壁を見上げて考えたことがあった  
この壁の向こうにあるものを手に入れたい  
確実な形になった夢がそこにある

テーマ  
素材

# 時

時

七海

二人でいた季節をいくつ超えても  
忘れる事なんて出来ない  
あなたに似たしぐさを見つけて  
私は過去を抱きしめる

ひとやすみ 空(SORA)

たまにはのんびり行こうじゃない  
あくせくしてないで  
立ち止まったっていいんだよ  
全部君の時間なんだから

決壊

河野夏月

川の流れをせき止めるように  
時の流れを押し留めたら  
私は  
溢れ出してしまっただろうか

こどもじかん

なお

お日様といっしょに おはよう！っていつて  
お日様に包まれながら ころがって  
お日様にさよならして また朝ね！って約束して  
すべてが宇宙とつながっていた 未来への時間

Time Bomb      ほたる      もえ

オレンジの風船片手に  
満員電車に乗り込む  
不自然な空間ができる  
そう 私は時限爆弾を抱えている

探し当てた答えの一つ      夜行人間

何で気がつかなかっただらう  
地獄も 樂園も  
すべては 自分の心の中にあっただ  
ああ そうだったのか……



夢い者たち

相模流緒

私を形成しているもの…70%の水と30%の細胞  
それだけで生きているわけじゃない  
時間はあまりにも短い  
あのひとを見つけるには…

砂時計

しゅんぎ

この胸に、この腕に残り少ない砂時計の砂が  
加速して落ちて逝くようにさよならの時間が迫る。  
幼い日、時はあんなにもゆっくりと、優しかったはず  
今はひたすらに切ない。

あなたへ

杏条

あなたが足りない　あなたが欲しい  
あんなに強く思ったくせに  
会えばあなたを潰そうとする  
わたしは勝手な生き物です

時間

KURARA

傷だらけの石は光り輝いて  
衝動は静かに鎮火して  
唯一はその他大勢に紛れて  
少女は春の匂いを失う

時

チャコ

風に吹かれて崩れ去る砂の城のような記憶がある  
年を経るごとに鮮やかさを増す記憶もある  
時という荒波にさらされたとき  
あなたは私に何を告げるのだろうか？

時（とき）

叙朱

切り刻むと無意味なくせに  
編集したら嘘になり  
そのまま見つめたらただ悲しくなる  
まるで掴みきれない思いに似て

テーマ素材

雨

雨

七海

冷静さを装っているけれど  
声が震えてる  
振り出した雨にせかされて  
小さく伝えたサヨナラ

てるてる坊主

ほたる

もえ

マジックで書いた  
てるてる坊主の顔  
雨はやんだけど  
君を泣かせてしまった

独り

河野夏月

緑の雨の降った跡が  
散らばっていた  
アスファルトの地面を  
踏みつけて帰った夜

雨の匂い

叙朱

降り出しを受けて  
黒土が呼吸を始めた  
生温かい雨の匂いは  
遠い母の吐息を思わせる

虹

KH(SORA)

突然雨が降った  
傘なんて持っていないから  
そのまま濡れてゆく  
雨のやんだ空には虹が光る

おたんじょうかい      なお

わたしが生まれたのは6月であじさいの花が咲く頃でした。  
毎日雨が降っている そんな頃がたんじょうび。  
あじさいの花もそんな日に 花が咲くからたんじょうび？  
いっしょに紅茶で かんぱいするね！

泣き虫

うさぎ

空気が湿った臭いがして来て、それは雨の少し前。  
 いいね、まるで地球が泣いてるみたいじゃない。  
 シトシト… 6月の雨のよに思い切って泣いてみよか？。  
 泣いた後は、もう1度地球も優しい気がするから

雨

相模流緒

ちいさい頃から雨降りの日は きれいだっ  
 空が真っ暗で 気持ちまで暗くさせた  
 雨上がりの 湿ったにおいがきらいだった  
 今はちがう。 つらいことを流してくれる 雨が好きになった



独りきり

杏条

雨・・・雨・・・雨が降る  
あの日の記憶に 私のほおに  
雨・・・雨・・・雨が降る  
独りきりの今はただ 切ない

雨

チャコ

私の頬にそぼ降る雨よ  
あの人眠る街も濡らしておくれ  
頼りない line をひた走る  
危うい自由が欲しいから

k a i k o n

夜行人間

強引に kiss をしてごめん  
 走り去る君の心に 横殴りの雨が降る  
 雨は容赦なく 君の心を押し流すから  
 傷つけた僕のこと 嫌いになってもしかたないよね

雨の部屋

KURARA

この雨が止まなければいい  
 この部屋から出られなければいい  
 あなたの嘘の正体に少し気付いて  
 光に晒されることを恐れている

雨

I S S I

雨は  
空気中の汚れを吸収し  
あらい流している  
涙は  
心の中の悲しみ  
溶かしあらい流している

テーマ  
素材

熱

Over Heat

ほたる もえ

熱暴走した思いに  
急ブレーキ  
立ち止まる私  
どこにも 進めない

熱

七海

繰り返すほど 言葉ではうめられず  
二人の居場所を確かめたくなる  
熱き想いに抱かれたままで 未来など  
壊してしまえたら救われるのに

風邪の確認

なお

少し咳を試してみる。      おでこに手をあてる。  
確信できたら  
ベッドにもぐり込みながら  
甘える準備をする。

Sさんのこと

夜行人間

そういえば 僕は昔  
君のことを かけがえがないと思っていた  
こんな風にしか 思い出せないほど  
遠い昔のことになっていたんだね

The Body

チャコ

永久に目覚めぬ遠い人よ  
あなたを撫でた私の指は冷たくなった  
生とは何か おぼろげながら  
わかったような7歳の冬

体育祭

河野夏月

受験という湿気で  
燻っていた毎日を蒸発させちまえ  
皆を巻き込み 走り出し  
最後の夏の熱気を生み出せ

自分らしさ

月那

胸の奥にしまったままの熱いもの  
取り出すチャンスもないままに  
いつしか自分さえも失いそう・・・  
私はどこに辿り着こうとしているのか

微熱

うさぎ

信号待ち、切り取られた時間 ふと見上げれば  
緑の中、オレンジの電波塔が夏空を呼び込んで  
最近、真夜中のなまめかしい臭いは消え失せたけれど  
独りに慣れた今も尚、 別れの微熱を抱いている



ぬくもり

相模流緒

おはようと言つて めざめた朝  
となりにはあなたは いなかつた  
ああ もうあの方は いないんだと思い知る  
現実に引き戻された私の あれは幻想・・・

刻印

KURARA

この熱が冷える前に  
この汗が乾く前に  
この痛みが癒える前に  
あなたから私の匂いが消える前に

## ひとりの部屋

杏条

高熱にうなされ 夜中に目を覚ます  
 汗ばんだ体 散らかったままの部屋  
 誰もいない 薄暗い たったひとり  
 貴方の暖かさに気がつく いまさら

あたたかい水 冷たい水 ISSI

あなたは あたたかい水  
 わたしは つめたい水  
 あたたかい水は つめたい水をあたたためる  
 そつと 気づかれないぐらいやさしく

冒流

空(SORA)

あなたの熱に冒されて手を取った過ち  
いけないとわかっていたのに求めた永遠  
幸せの熱にのぼせて隠された真実  
傷ついたのはいったい誰？

熱意

叙朱

空気は気持ちを作るって  
まったく本当だね  
苦境に光る汗にまでも  
君の決意がこもっている

テーマ  
素材

# 波

Waver

ほたる  
もえ

人の波に逆らつて  
強がつて生きてきたのに  
見つけられない 私の居場所  
そろそろ 流されてみようか・・・

空港でお別れするとき

なお

さよならと言つたあと  
君の瞳に波がゆれた  
それをかくそうとしてる君みてたら  
わたしの瞳は津波になつた

こころの揺れ

ISSI

こころの揺れを  
隠そうとすればするほど  
なおさら乱れてしまう  
いつもあなたの前では

心の波

K  
u

伝えるべきか  
迷いの狭間で  
君への想いが  
寄せてはかえす

波

七海

もう これ以上バランスを失いたくはない  
嫉妬の波に吞まれ続けて 君じゃない誰かを  
今抱こうとしている 流されるまま  
たどり着くのは絶望の淵しかないというのに

リセット

KH(SORA)

打ち寄せてかき消える波  
その波のようにこのまま消えてしまいたい  
貴方との思い出と一緒に  
すべてをリセットしたい

悠久

河野夏月

寄せてはかえす 寄せてはかえす  
あなたへの想いも  
裏切られたあの日と憎しみも  
寄せてはかえす 寄せてはかえす

燻る

夜行人間

錆が浮いた窓の外 大粒の雨が降る  
ドアに寄りかかり マツチに火を灯す  
指先で燻る タバコの紫煙が  
何だか 今の自分に重なって見えた



波

うなづ

容赦なく何度も押し寄せる自問自答の波達  
この身を打ちさらすガラスの欠片（かけら）になろう  
宝石とはいかなくても 小さく光ってみよう  
お前の様に あるがままに強くあれたら

優しかった夏

月那

もうずいぶん あの海には 行っていない  
友達や恋人と 夢や悩みを語り合った夏休み  
闇に白く光る波を凝視して「人生そのものだね」  
と言ったあなたの横顔は 忘れない……

散歩

波

チャコ

水の退いた浜辺に 足跡をつけよう  
 口にできない言葉の数だけ  
 ひとつおつ ふたあつ みつつ……  
 満ち潮が待ち遠しい

風の祝福

杏条

緩く陽差しの降りそそぐ  
 二人の部屋のベランダで  
 私はあなたに甘えるように  
 たゆたうシーツを抱きしめる

眩しい海

叙朱

切り上がった波先で  
危うくバランスをとるサーファー  
こぼれる歯の色に  
私の羨望が乱反射している

テーマ素材

嘘

まなざし

嘘

チャコ

私の奥で育つていく想いを  
今は どうしても  
隠さなければならぬから  
過ぎゆく夏に瞳を閉じる

嘘つき

杏条

眞実を嘘で塗りつぶせるほど  
そんなに器用じゃないくせに  
後ろめたさに耐えられもないくせに  
どうして僕はまた嘘をついたのだろう

叶うなら

河野夏月

祈りにも似た  
気持ちで吐き出す  
これが本当だったら  
よかった

幼いうそ

叙朱

青白い頬が震えているというのに  
ゼンゼン平気ダヨ  
いったいどこでどうやってきみたちは  
そんないたわりを覚えるのか

しょうじきもの……

なお

どう考えても似合っていない服を手を取った客に  
お世辞を言ってる店員さん  
その横を「変なのっ！」と通った男の子……  
ウソとホントがみえた瞬間

私の嘘

月那

知っていたのですね あなたはすべて  
気付いてないふりは苦しかったです  
もう自由になつていいのです ごめんなさい  
私はあなた以上に苦しいのです

ソーダ水

ほたる もえ

ソーダ水がしゅわしゅわと溶けていくように  
信じたくなかった  
あの日の約束が  
ウソだって……

嘔吐き

奈緒

あたしが気づいていないと信じて  
貴方は眼を濁らせて笑う  
嘔吐き  
貴方のその癖、知らなきゃよかった



お互いさま

EH(SORA)

うそをつくのは苦手 顔に出てしまつから  
でもそんなあたしに気付かないふりをする  
あなたのうそも 顔に出るんだよ  
知ってた？

13・25

夜行人間

誰のためでもない  
ただひたすらに 自分のため  
だから この世界には決して  
「優しい嘘」なんてものは 存在しないんだ

嘘

いぢぢ

小さな嘘を、星の数ほどちりばめても  
私には、守り通したい恋だったのに  
あなたの、たった一つの嘘で壊れてしまった  
嘘もつきとおせば 真実（ホント）と聞いたけれど・・・

優しい嘘

KURARA

ありがとう 待っていてくれて  
騙していてくれて ありがとう  
私の心の準備ができるまで  
欺いていてくれてありがとう

嘘つき

杏条

眞実を嘘で塗りつぶせるほど  
そんなに器用じゃないくせに  
後ろめたさに耐えられもしないくせに  
どうして僕はまた嘘をついたのだろう

花

ISSI

かなしい嘘をありがとう  
わかっていたけれど信じてみたかったから  
わたしは心から笑顔をつくった  
まるで汚れた水に咲く花のように

テーマ素材

顔

風貌

夜行人間

長い長い商談が 終わった後  
手洗いに ひとりたつ  
ふいと見た 鏡の奥に  
若き日の 父がいた

顔

チャコ

若さはいらない  
美しさもいらない  
肌に刻んだ苦闘の跡が  
いつか私を語ってくれる

ガード  
まつなみき

あなたの頬に 頬を寄せる  
一つ一つガードを崩してゆく  
こんな近く  
なのにあなたはうわの空

寝顔  
月那

すやすやと気持ちよさそうに眠っている  
あなたの顔をながめていると  
私の中の柔らかな広い心が  
目を覚ます

poker face            ほたる    もえ

平静を装って

Poker face---

言えない    まだ打ち明けられない  
君との関係

素颜                    sijima

あなたの前で泣いてはいけなとがんばっているから  
扉を閉めた途端に涙の堰が切れる  
いつだって一番見せたいのは  
泣き顔なのに

回想

奈緒

長い間雨が降り注ぎ  
一緒に過ごした記憶は  
眼の向こうにかすれました  
貴方の顔すら思い出せない

本音

河野夏月

いつも楽しそうにくるくると変わる  
君の表情だけど  
あの時 一瞬だけ歪んで消えた  
眉根の向こう側が知りたい



印象

KURARA

優しい顔してるなんて  
目が垂れてるだけじゃないの  
悩みなんてなさそうだった？  
整形でもしようか！

面影

いぢぢぢ

一人の寂しさに眠れないベッドの中  
あの人の笑顔を  
取り出してみたいけど  
洗いざらしたTシャツ  
みたいの色あせてる  
胸の中に秋風  
痛んでならない

笑顔

空(SORA)

いつもの笑顔がそこにある  
君のはにかんだ笑顔が一番好きなんだ  
イヤなこともすべてを忘れさせてくれる  
僕の特効薬

お願い

杏条

笑われるかもしれないけど それでも言うよ  
大切な何かを思い出せそうだから  
捨ててしまった何かを取り戻せそうだから  
君には 笑っていてほしいんだ

顔

七海

苦しい恋になつていく  
二人を信じたばかりに  
愛しい寝顔に手が届く  
距離にあなたがいる事さえも

カオ

ISSI

石が叫ぶカオを見てごらん！  
空がいつも泣き出す理由を考えてごらん！  
ほら、森が歯を出して嘆くカオを！  
僕らのひきつった笑顔に。

勝った……

叙朱

細い目、丸い鼻、尖った唇、紅い頬  
 どこにでも転がっているパーツの組み合わせなのに  
 テレビの向こうで際立って輝いてみえる  
 きょうの笑顔だけは特別製らしい

至福のとき

相模流緒

ふかふかの泡につつまれる　こころが静かになってゆく  
 やつぱり　素顔のほうがいい  
 ほんとうのわたしに戻る　わたしのための時間

テーマ  
素材

味

味覚

月那

赤ちゃんの時はミルクの味しか知らなかったあなた  
 子供の時は甘いお菓子に夢中になったね  
 大人になつて覚える味は口にするものだけでなく  
 いろんな感情のうまみや苦みを経験していくんだね

味

七海

ずっと大事にしてきた人を  
 失う覚悟を決めてのサヨナラ  
 呼びなれた名前の愛しさに  
 後味の悪さが残る日曜の午後

ブイヨン

うなぎ

涙は塩味 笑顔はエッセンス……ならば  
 私は鍋 人生をスープにして抱え込んで  
 人は誰しも 5つ星レストラン  
 味見は不要

近いうちに

ほたる

もえ

棚に並ぶ 画一的な味に  
 僕はちよっぴり うんざりしていた  
 振り返ると 扉の向こうを通り過ぎる親子  
 ”近いうちに帰省しよう”……心に誓った

苦い味

EH(SORA)

はじめて飲んだビールは苦かった  
あなたと一緒に飲んだビールは  
舌に慣れて笑いがあふれていた  
今は涙で苦い味がする

緊張

チャコ

胸の奥が震えている  
練習を積んでもうまくいくとは限らない  
さり気ない笑顔を見せて  
キッチンというステージに立つ



B E E R

相模流緒

はじめての時はとっても苦くて「まづーい」と思った  
大きくなったあたしはお風呂あがり  
冷蔵庫からひえひえを取り出して  
「うまーい」と叫んだりするのである

誤魔化し

KURARA

煙草もキスも  
間を紛らわすため覚えた  
煙草の味のキスは  
苦い思い出ばかり残した

素手

夜行人間

自分がどれだけ強いか  
ただそれだけの理由で 突っ走ってきた  
口の中に血の味がする  
一七歳の夏

口論

河野夏月

美味しいものも  
ままずくなるから  
今だけは声を荒げないでよ  
ほら 杏仁豆腐も泣いてるじゃん

涙の味

杏条

もう泣かないって決めたとき  
心は枯らしたつもりだったのに  
忘れたはずの悲しみが頬に溢れて  
やけにしょっぱく私を濡らす夜

いろんな味

ISSI

ボロゾウキンにならなければ  
きつと何にも気づけなかった  
絞られて すり切れて 捨てられて 拾われて  
いろんな味のするように分かるようになったよ

望郷

叙朱

日にあせた引き戸の向こうに  
必ず待っていた母の団子汁  
白い湯気と薄口しょうゆ味が  
記憶の向こうで微笑んでいる

テーマ素材

闇

帰宅

ほたる もえ

鍵をあけると

広がる暗闇

”もう 慣れっこだから”

強がってみても 一人は寂しいよ

白の飛翔

聡碧

灰色のビルを遙かに超えた空の深みに

カモメが一羽 滑空する できるならば

その痛々しさを感じさせるほど清らかな白い飛翔が

切ない祈りに似た力になり この闇を切り裂いて欲しい

闇

七海

合い鍵なんて渡さなければよかった  
そうすれば 目を閉じていても歩いてしまう程  
あなたがこの部屋に馴染む事はなかったのに  
私があるのいる風景に馴染んでしまう事も

灯火

マスカット

揺れる心のざわめく炎が  
冬の小道に歩く人影ひとつ 寂しげに  
夕べの別れはとわのもの……  
闇の向こうの灯火を ただ欲しくてひた歩く

子宮

月那

あなたがもう少し大きくなったら

聞いてみたいことがあるの

「ママのお腹の中はどんなだった？」

羊水に包まれあなたは何を見ていたの？」

優しい夜

るりこ

穏やかな暗闇に抱かれて

私の隣で眠るあなたの

健やかで美しい横顔を

盗み見しながら眠りにつく夜。



宇宙のつながり

なお

暗い闇の向こう側 ずっと遠くの向こう側  
 同じように見上げてる わたしみたいな子がいてる  
 そんな気がした夜でした。  
 とても静かな夜でした。

初雪

EH(SORA)

「あ、雪だ・・・」  
 誰ともなく夜空を見上げる  
 闇から生まれた雪がふわり  
 鼻のてっぺんに落ちて消えた

闇

くらら

目を開けて見る静かな闇と、  
目を閉じて内にある深い闇と、  
どちらが強い？どちらが怖い？  
私は弱い　それ故に戦いを挑む。

夜

KURARA

全てを　覆い尽くす闇が降り  
私たちは　夜の中に隠れる  
光に　暴かれ抉られた傷痕を  
再び　冷たく閉じるために

つらいとき  
叙朱

つかの間の休息  
膝を抱えて目をそらす  
小さな仕草に  
きみの気持ちの闇が見えた

闇  
杏条

光へ走れば走るほど  
背後のそれは怖くなり  
光を望めば望むほど  
背後のそれは黒くなる

ためらい

夜行人間

僕が闇を愛したのか 闇に僕が愛されたのか  
今となつては 知る術がない  
ただ 君の無邪気な笑顔を見ていると  
もう一度だけ 光ある世界に帰ってみたくありません

# ノスタルジア

振り返ってみようと 思ったときが  
あなたの ノスタルジア

## 月刊ポエム同人会について

月刊ポエムとは、電子メールを使って月一回の詩集配信を行っているインターネット上の詩人会です。

毎月、月替わりのテーマ素材を定めて、四行詩による競作を行います。

詩文には平易さを求めて、口語のみ、また長さも四行までという形式を採っており、詩心のある方ならどなたにもご参加いただけます。

巻末にインターネットのサイトをご案内を掲載いたしましたので、興味のある方はご参照ください。

気ままな4行詩集

## ノスタルジア

月刊ポエム同人会

<http://www2c.biglobe.ne.jp/~joshjosh/>

二〇〇二年五月第四版発行

編集・発行

月刊ポエム編集人ジヨツシュ

発行形式

PDFファイル形式

問い合わせ先

[prn81060@nuj.biglobe.ne.jp](mailto:prn81060@nuj.biglobe.ne.jp)

ホームページ

上記URLにて公開中です。